OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	語文　第17輯　編輯後記/投稿規定/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 1956, 17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68500
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編輯後記

炎暑の候、第十七輯をおくりします。各論考については、もはや編輯者としてとかく申すことはさし控へ、各位の忌憚ない御批判にお委せいたします。

翻刻した入江昌喜の著作は、当研究室で調査研究に従事してゐる大阪和学史のための一資料でもあるわけですが、翻刻に至った縁起は解説にみられる通りです。原本に直接あたれなかったのが残念ですが、残りの「後篇下」は次号に譲って完結させる予定です。

本輯は小島教授に、右の解説のほか、教授室の机上に積み上げられてゐる新著の中から六種を選んで紹介していただきました。文学部長になられてから殊に御多忙な中を快く執筆の労をおとりくださったことを御礼申したいと思ひます。（T）

全国大学国語国文学会が出来た。われわれの学界に錯綜横行する紀要・雑誌（本誌もそのひとつであるが）の類もその機関誌にレジメが収載されることによって現状がかなりよく整理されてくると思われる。

大学や研究団体が刊行している雑誌類を統合するということはいろんな事情で不可能とすれば、こうした不偏不党の綜合機関がどうしても必要であったわけである。

しかし、その機能を十分に発揮させるには各大学の研究室や個々の研究団体が、その企画に積極的に協力するということがなければなるまい。

この学会の事務をあずかる学芸大学の研究室にしても、この学会の事務のために、誰かが彼本来の研究の、時間と能力とを割愛しているのに違いないと思われるし、それならば、この学会から恩恵を蒙ることを期待するものは、そうした犠牲の上に利益をうけるのであるということをも知らねばならないであろう。

犬養孝氏の「万葉の風土」が塙書房から刊行された。装幀といい、内容といい、夏の書斎の清鑑にふさわしい好著である。（Y）

◇投稿規定◇

○直接購読者は投稿することができる。
○原稿の内容は国語・国文学、国語教育に関するものであること。分量は四百字詰原稿用紙二十枚以内とする。
○原稿の送り先は「豊中市柴原、大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。
○原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
○採用しなかった原稿は返送料が添附してあれば返送に応ずる。
○一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

❖雑誌の寄贈・交換について
○雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原 大阪大学文学部 国文学研究室宛に願いたい。

❖購読について
○購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。（送金は振替を利用されたい）

一部　五十円　送料八円
一年分(四回分)　二百円(送料共)

¥ 50

発行所　大阪市南区横堀7丁目19　文進堂　振替大阪112730番　電話船場(25)1990番
編輯者　大阪府豊中市柴原　大阪大学文学部国文学研究室　代表　小島吉雄